



留学だより

大学院理工学研究科 博士前期課程 物理・宇宙専攻1年 齊田 智恵さん オーストラリア国立大学 (2015年3月30日～9月15日)



平成26年度「ビタテ!留学JAPAN」の第1期生として採用され、指導教員の中西裕之先生の薦めでキャンベラにあるオーストラリア国立大学へ研究留学しました。受け入れ先の天文学天体物理学研究科は、市の中心街にあるメインキャンパスから車で20分ほどのストロムロ山中にあり、研究棟や望遠鏡、学生寮が整備されています。週に1回下山し、食料を買い込んでくるという山籠もり同然の生活で、標高が高かったですが、広い大地と山々、星空や市街地が見渡せるその場所では、朝には鳥たちの囀りを聞き、夕方には草を食むカンガルーに出会えるなど、多くの自然を感じる事が出来ました。

直径64mのパークス電波望遠鏡で観測した天の川銀河のデータを解析することが主な研究でしたが、500キロ先にある6基の電波望遠鏡をリモート操作しながら同時に観測したり、望遠鏡や双眼鏡を使って月を10分間眺める世界記録に挑戦する天体観望会にも参加しました。また、補修授業校高等部\*で臨時の講師として授業させてもらったり、天文学の主流となるプログラミング言語を習得するなど、これまでにない研究や勉強を海外で体験したことは、とても貴重な経験になりました。今でも交流のあるビタテの仲間たちは、出身大学や留学先、研究内容も全て違いますが、それぞれの留学先で幾度となく挑戦や葛藤を繰り返しています。留学を迷っている人には、「とりあえずやってみよう!」と声をかけたいです。刺激し合える仲間に出会え、生きることの素晴らしさを実感できるはずですよ。



ビタテ!留学JAPANの仲間たちと。右が齊田さん

\*補修授業校:海外で生活し、現地校に通っている日本人の生徒が週末に日本の教育を受ける学校

Table with 2 columns: Name/Department and Award/Event

Table with 2 columns: Name/Department and Award/Event

Table with 2 columns: Name/Department and Award/Event

Table with 2 columns: Name/Department and Award/Event

Table with 2 columns: Name/Department and Award/Event

Table with 2 columns: Name/Department and Award/Event

Table with 2 columns: Name/Department and Award/Event

Table with 2 columns: Name/Department and Award/Event

Table with 2 columns: Name/Department and Award/Event

Table with 2 columns: Name/Department and Award/Event

Table with 2 columns: Name/Department and Award/Event

Table with 2 columns: Name/Department and Award/Event

Table with 2 columns: Name/Department and Award/Event

Table with 2 columns: Name/Department and Award/Event

Table with 2 columns: Name/Department and Award/Event

農学部ニュース

平成27年度学長裁量経費「農林学系グローバル人材育成のための学生海外研修充実と協定校との連携強化」に採択され、4つの学生海外研修と、2名の教員の国際交流事前調査を支援しました。一つ目は、農学部教員が担当して開講している共通教育科目「国際協力農業体験講座「タイミヤンマー」」の実施です。この科目の受講生は累計392名に達しており、鹿児島大学の名物科目の一つになっています。二つ目は、学術交流協定を締結してから26年を超える中国の雲南農業大学との交流です。特に平成22年度からは、農学部の教員が中心となり両大学の学生交流を継続しており、本年度の実施により両大学の学生交流は92名に達しました。三つ目は、ドイツのロツェンブルグ林業大学との交流です。平成24年度から交流が始まり、今年度は教職員と学生の相互交流約40名の学術交流を行いました。四つ目は、農業環境工学分野における新たな学生研修をフィリピンで行いました。この他、今年度から農学部と水産学部との連携で設置した国際食料資源学特別コースでは、6名が香港の食品会社でインターンシップを行いました。さらに、農学部が中心となってインドネシアのスリジャヤ大学と新しく大学間学術交流協定を締結するなど、活発に国際交流を行っています。



雲南農大生によるプレゼンテーション



ミャンマーの粉砕液の採取風景

水産学部ニュース

水産学研究所は、平成26年に東南アジアの大学と共に熱帯水産学国際連携プログラムを創設し、現在は7ヶ国の大学で運営しています。このプログラムは、構成校の間で特徴ある質の高い科目を提供し、統一した履修規則の下で学生は自らの構成校でも自由に科目を履修できることになりました。また、画期的な国際共同教育制度として内外から高い評価を得ています。授業はすべて英語で行われます。本学農学部と連携して、学士課程に国際食料資源学特別コースを設置しました。この課程の学生は、卒業研究に代えて海外プロジェクトを通して国際的な視野を養います。この準備のため、今年度から国際協力機構(JICA)と協力して、セントルシアとロビンビアの大学等で学生が国際ポテンシャルアップ活動に参加する制度を開始しました。海外漁業協力財団(OFCF)やJICAの委嘱を受けて国際研修事業を20年以上実施しています。特にOFCF委嘱の海外水産指導者養成コースは履修証明課程として実施しています。開発途上国から参加した研修員が本学部の学生と一緒に学ぶことで、キャンパスのグローバル化の一端を担ってくれています。このように、国際社会に直接貢献する中で学生のグローバル教育を図るのが水産学部の国際化の特徴です。



熱帯水産学国際連携プログラムで議論する構成大学と本学の学生



練習船かごしま丸によるフィリピン大学の学生を含めた国際協働乗船実習

共同獣医学部ニュース

この数年、海外短期留学研修JASSO海外留学支援制度に採択されて、2つの学生短期留学プログラムを行っています。今年も「国際水準を満たす臨床獣医学教育のための研修派遣プログラム(米国・ジョージア大学)」と「ポータル獣医学教育を目指したアジア獣医学教育体験研修プログラム(台湾・中興大学)」の2つのプログラムで2週間の訪問大学での実習研修を受けました。文部科学省のプログラムである、官民協働海外留学支援制度「ビタテ!留学JAPAN」日本代表プログラム1の第一期生に採択された2名が、無事に留学を終えてクオールラナ視点を持って大学に帰ってきました。1名はオーストラリアももう1名は米国の大学全体で強く支援されています。トルコのアンカラ大学獣医学部長の訪問を受けました。大学間協定締結校のアンカラ大学獣医学部は、欧州獣医学教育認定機構による教育認証を非EU国を受けている数少ない大学です。教育認証の取得をめざしている本学部の改善点に関して貴重なアドバイスをいただきました。また、全学での両大学の学生交流についても住吉理事を交えて友好な協議ができました。



中興大学研修メンバー(本学から2名)



ジョージア大学研修メンバー(本学から3名)

学部ニュース 平成27年度

各学部で行われた国際交流実績等を中心に紹介します。

法文学部ニュース

6月27日、国立成功大学から陳麗君先生、東京から台湾語研究者の林虹瑛先生、台湾文学研究者の橋本恭子先生をお招きし、台湾の言語文化やLGBT支援活動などを紹介するウェナキョウ文化シンポジウムを開催しました。会場には教員や台湾に交換留学した学生のほか、在鹿台湾人や一般の方々まで幅広い聴衆にご参集頂きました。7月18日、神戸大学法文学部代表を務める日本マクロ経済学研究会は、韓国マクロ経済学研究会と共同でマクロ経済学研究会(増材大)およびジョンソン先生(成均館大)をお招きし、初めての日韓合同研究会を鹿島に開催し、北アフリカ文化についてフランス語で研究交流を行いました。9月17日、20日、経済情報学フィールド実習(社会学)の一環として、12名の学生がインドネシア大学で行われたAsia-Pacific Student Forumに参加し、英語で報告を行うとともに、各国から参加した学生連達のグループワーク、ポスター発表を行いました。研究を通して、社会問題の解決にもつて実践的な能力を身につけました。



Asia-Pacific Student Forumでの研究報告の様子

教育学部ニュース

11月9日、12月4日に行われた「JICAアフリカ地域教師研修の一環で、11月24日に、鹿児島大学へ来学中の研修生6名と、教育学部生現職教員を含む大学院生との交流会が行われました。研修生の出身国(エチオピア、ガーナ、モザンビーク、南スーダン、ザンビア)のこのや学生の大学生活、研究内容について紹介し、あいまた、それぞれの国の教育の現状について意見交換を行うなど、一同は楽しく、有意義なひとときを過ごしました。12月18日、22日、韓国国立大江陵原州大学の研修団を受け入れました。今年度は学生18名と人文大長の朴慶泳教授が来日しました。国際理解教育専修の学生を中心に、他専修や他学部との学生の協力も得ながら、2泊3日のホームステイを受け入れ、学生交流会や懇親会などを実施し、交流を深めました。一行は鹿児島市内の他に、知覧武家屋敷、敷賀特攻平和会館、沈清宮などを見学後、アジア太平洋農村研修センターの3泊4日の研修を終え、無事に帰国しました。



JICA研修生との交流会開催



江陵原州大学の研修団と記念撮影

理学部ニュース

11月23日、27日、第6回日豪実・複素特異点研究会(JA.RCS6)を理学部で開催しました。国内外の研究者約50名が参加し有意義な議論が交わされました。(数理解析学) 学内、国際電波天文学共同研究推進室を立ち上げ、国際大型電波天文学観測装置設置(Science and Technology Strategy)への参加に向けた先導的・実務的活動を展開するとともに、日韓超長基線電波干渉計共同観測事業(KaVA: Korean VLBI Network and VERA Combined Array)を進めています。(物理科学) スパインアライメント研究所と植物・モダロロの機能解明に向けた共同研究を実施しています。10月末から6週間、大学院生1名が先方の研究室に滞在して実験を行いました。タイクニナリ工科大学とは、イネと土壌細菌の共生について、平成28年4月から学生の相互派遣を含めた共同研究を実施することになりました。これにより、研究も日本学術振興会の「国際共同研究」として採択されています。また、大学院間の学術交流協定(MOU)を締結して、マレーシアのサバハ大学(Marathon)と日学術振興会の若手研究者「インターナショナル・ネットワーク」を通じて活発に交流しています。1月29日に、サハ大学学長を本学に迎え、友好大使を前田学長から委嘱しました。(生命化学)



第6回日豪実・複素特異点研究会の参加者

工学部ニュース

10月15日、17日にノースダコタ州立大学でバイオテクノロジー/ナノ材料・高分子に関する合同シンポジウム(NDSU-KU Joint Symposium on Biotechnology, Nanomaterials and Polymers)が開催されました。理学部、工学部、農学部と大学院生14名の合計19名が参加しました。教員による講演、大学院生による3分間のポスター発表、発表に加え、学生交流を深める様々なイベントが行われました。11月31日、12月6日の期間、インドのNational Institute of Technology, Kanpur(NITK)を大学院生2名、ポスター研究訪問時に研究発表が実施され、学生は英語でプレゼンを行い、異文化理解や外国語でのコミュニケーションの難しさを体感出来る貴重な機会になりました。理学部、工学部では、今年度より学4期分割授業日程を導入し、グローバル教育の一環としてアメリカ合衆国カリフォルニア州サンディエゴにおいて「大学院理工系イノベーション海外研修」GOESプログラムを3ヶ月半の期間にわたり実施し、13名が参加しました。本プログラムは、語学研修、理工学系研修、就業研修の3部構成になり、本学協定校サンディエゴ州立大学やサンディエゴ州立大学で行われ、学生連は将来に繋がる充実した体験をしました。



National Institute of Technology Karnataka(NITK)訪問



バイオテクノロジー/ナノ材料・高分子に関する合同シンポジウム

歯学部ニュース

5月26日、28日、部局間協定校のカナダ、ブリティッシュコロンビア大学歯学部よりJonathan M. Stan先生が来校され、学生・教員を対象に国際交流とは何かについて講演され、学生と小グループによる討論交流を行いました。8月10日、14日、台湾にて開催されたAPDSA(アジア太平洋歯科学国際会議)に8人の学生が参加しました。APDSAはアジア太平洋地域の歯科学者が交流、ワークショップ、研究発表、歯科医療の視察等を行う大会です。鹿大歯学部として初めて参加しましたが、研究発表では5年の成昌フン君が最優秀賞に選ばれ、また各国の文化紹介をするイベントコンペティションでは鹿大歯学部学生を含む日本チームが見事優勝しました。11月30日に桜ヶ丘キャンパス内の鶴岡会館で第1回鹿児島国際歯科学シンポジウムを開催し、大学内外の関係者、学部生、大学院生を含む149名が参加する盛会となりました。当日は部局間学術協定校のヤンゴン歯科大学(ミヤマー)、エラワガ大学歯学部(インドネシア)よりそれぞれSteve Fookes, Olan Pannons教授をお招きし、「東南アジアにおける歯学教育の現状と展望」について講演し、活発な意見交換を行いました。



アジア太平洋歯科学国際会議



Shah先生(歯学部国際交流)